鳥衝突を未然に防ぐ

環境研究総合推進費シンポジウム　　CPD認定プログラム申請予定

～鳥と風車の共生を目指して～

本シンポジウムは（独）環境再生保全機構　環境研究総合推進費4-1803
「洋上風力発電所の建設から主要な海鳥繁殖地を守るセンシティビティマップの開発」により実施いたします

日　時　2021年5月22日（土）13:00～17:00

会　場　朱鷺メッセ 4F 国際会議室　新潟市中央区万代島6番１号

申込方法　参加費無料。新型コロナウィルス感染症対策のため、入場者数を最大180名に制限しています。オンラインでの参加も受付けております。右のQRコードにアクセス、または下記メールアドレスにて事前申込みをしてください。申込Mail：sensitivitymap.sympo0522@gmail.com
（代表者名・参加人数を記入しお送りください）

講演内容

【第一部】「鳥衝突を未然に防ぐセンシティビティマップについて」
浦達也（公益財団法人日本野鳥の会），會田義明（環境省環境影響評価課），関島恒夫（新潟大学）
綿貫豊（北海道大学），河口洋一（徳島大学），丸山康司（名古屋大学）

【第二部】「パネルディスカッション」
コーディネーター：関島恒夫
パネリスト　：見上伸（一般社団法人日本風力発電協会 JWPA 理事），
會田義明，浦達也，丸山康司，綿貫豊，河口洋一

主催・お問合せ先

国立大学法人 新潟大学農学部 関島研究室 TEL：025-262-6623
新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地
【共催】応用生態工学会新潟

2021年5月22日（土）

環境研究総合推進費シンポジウム

鳥衝突を未然に防ぐ

～鳥と風車の共生を目指して～

【開催趣旨】
2050年のカーボンニュートラルの実現を目指し、今、再生可能エネルギーが注目されています。特に風力発電は高い導入ポテンシャルが期待されていることから、今後、大きく推進される可能性が高いです。一方で、風力発電の導入が各地で進むにつれて、計画段階における環境紛争も顕在化しており、特に風車ブレードに鳥が衝突死するバードストライクが世界的に大きな問題となっています。鳥衝突を未然に防ぐ有効な対策として期待されているのが、重要な鳥類の生息分布等に基づき、鳥類が風力発電の影響を受けやすい場所を示したセンシティビティマップの活用です。本シンポジウムでは、わが国におけるセンシティビティマップの整備状況を紹介するとともに、その活用方法について議論します。

【新型コロナウィルス感染症対策について】
本シンポジウムでは会場内での感染症対策として以下のお願いをしております。
①受付時に体調チェックシートの記入　②マスクの着用　③入場時の体温測定　④出入り時に手指のアルコール消毒
【ライブ配信について】
本シンポジウムの様子は、Zoomでのライブ配信を行う予定です。なお、会場内の撮影にあたっては、参加者の皆さまに最大限配慮致します。予めご了承いただきたく存じ上げます。

～プログラム～

12：30　受付開始
13：00～13：10　開会　あいさつ

第一部　講演

13：10～13：40　「風力発電が鳥類に与える影響とセンシティビティマップ」
浦 達也（公益財団法人日本野鳥の会）

13：40～14：10　「風力発電立地検討のためのセンシティビティマップについて」
會田 義明（環境省環境影響評価課）

14：10～14：30　「オオミズナギドリのセンシティビティマップ」
関島 恒夫（新潟大学）

14：30～14：50　「ウミネコのセンシティビティマップ」
綿貫 豊（北海道大学）

14：50～15：10　「オジロワシのセンシティビティマップ」
河口 洋一（徳島大学）

15：10～15：40　「センシティビティマップの活かし方」
丸山 康司（名古屋大学）

15：40～15：55　休憩

第二部　パネルディスカッション

15：55～16：55　コーディネーター　関島恒夫
パネリスト　見上伸（一般社団法人日本風力発電協会 JWPA 理事）
會田義明、浦達也、丸山康司、綿貫豊、河口洋一

16：55～17：00　あいさつ　閉会

【主催・問い合わせ先】国立大学法人 新潟大学農学部 関島研究室 TEL：025-262-6623 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地
【共催】応用生態工学会新潟
本シンポジウムは（独）環境再生保全機構　環境研究総合推進費4-1803「洋上風力発電所の建設から主要な海鳥繁殖地を守るセンシティビティマップの開発」により実施いたします。CPD認定プログラム申請予定。

講演者・パネリストのプロフィール

（発表順）

浦（うら） 達也（たつや）

所　属　：公益財団法人日本野鳥の会　自然保護室
専門分野：鳥類学、動物生態学
略　歴　：1976年札幌生まれ。2005年、北海道大学大学院博士後期課程を単位取得退学後、日本野鳥の会入局。野外鳥類学会誌『Strix』の編集を担当後、2010年から自然エネルギーと野鳥に関する業務や絶滅危惧種の保護対策（チュウヒ、オオジシギ、サンカノゴイ）を担当。自然エネルギー対策業務では、行政機関や事業者への要望書・意見書の提出、環境省や地方自治体による風力発電に係る委員会への委員参加による政策提言の他、国内外の既存情報および現地視察による現場情報の収集とその普及、野鳥の会独自の調査の実施など、様々な活動に携わっている。

【近年、委員として参加した検討委員会等】
・風力発電施設立地検討のためのセンシティビティマップ検討会
・洋上風力発施設立地検討のためのセンシティビティマップ検討会
・北九州市洋上風力発電に係るゾーニングのための生態系調査等ワーキンググループ
・（久慈市）洋上風力発電ゾーニング協議会

會田（あいだ） 義明（よしあき）

所　属　：環境省　大臣官房　環境影響評価課
専門分野：環境政策、環境アセスメント
略　歴　：昭和41年4月生まれ。横浜市出身。筑波大学第一学群自然学類（地球科学専攻）卒業。民間のコンサルタントに勤務し、20余年にわたり環境コンサルタントとして様々な事業の環境アセスメントに従事。

平成25年8月より環境影響評価課・専門官、今年4月より同課・係長補佐。環境省環境影響評価課にて、環境影響評価の制度に関する施策や、主に風力発電所の環境アセスメントを対象とした技術的な施策や予算事業の執行に従事し、今日に至る。技術士（環境部門）。気象予報士。環境計量士。

風力発電の黎明期より、環境コンサルタントとして風況精査などの業務に関与してきました。風力発電が環境影響評価法の対象事業となった頃（平成24年）とほぼ時を同じくして、環境影響評価課の職員として風力発電の環境アセスメントの制度面、技術面の施策に取り組んできました。

<所属協会・団体・学会等>
環境アセスメント学会、大気環境学会

講演者・パネリストのプロフィール

（発表順）

関島 恒夫（せきじま つねお）

所　属　：新潟大学　農学部
専門分野：生態学、保全生物学、生理生態学
略　歴　：1963年東京生まれ。1993年東京大学大学院農学系研究科博士課程修了。博士農学。財神奈川科学アカデミー・近藤「冬眠制御」プロジェクト研究員三菱化学生命科学研究所を経て、1998年新潟大学大学院自然科学研究科助手、2001年同助教授を経て、2007年より同准教授、2016年より新潟大学農学部教授。風力発電関連の委員として、経済産業省環境審査顧問会顧問、洋上風力発電施設立地検討会のためのセンシティビティマップ検討会委員環境省、風力発電に係る環境影響評価制度合理化検討会委員環境省、太陽光発電施設等に係る環境影響評価の基本的考え方に関する検討会委員（環境省）、環境影響審査助言委員環境省などを歴任。平成24年度に風力発電が法アセスの対象になってから、鳥衝突に関する研究を開始。現在は、環境研究総合推進費環境省・環境再生保全機構の助成をうけて、風車に対する衝突リスクを見える化するための海鳥のセンシティビティマップ作製手法を開発している。

綿貫 豊（わたぬき ゆたか）

所　属　：北海道大学大学院水産科学研究院
専門分野：海洋生態学
略　歴　：1959年長野県生まれ。北海道大学農学部生物科学専攻卒業、1987年同大学院博士課程修了（農学博士）。学術振興会特別研究員、国立極地研究所寒冷生物部門助手、北海道大学大学院農学研究科助教、同大学院水産科学研究院准教授をへて現在同研究院教授。海鳥の行動生態を専門とし、南極昭和基地とオーストラリアデービス基地でのアデリーペンギン、アラスカのプリビロフ島や北極スピッツベルゲン島でのハシボソウミガラス、タスマニア島でのハシボソミズナギドリ、スコットランドメイ島でのヨーロッパヒメウなど海外での共同研究、北海道でのカモメ類やウトウなどの長期研究に従事してきた。環境省野生生物保護対策検討会ウミガラス保護増殖分科会委員・委員長、環境省重要生態系監視地域モニタリング推進事業検討会委員会（海鳥）委員長、環境省洋上風発センシティビティマップ検討会メンバーを務めている。また、日本海鳥グループ会長として環境省海鳥コロニーデータベース作成を実施してきた。

河口 洋一（かわぐち よういち）

所　属　：徳島大学大学院社会産業理工学研究部　准教授
専門分野：河川生態学、生態系管理学
略　歴　：1970年福井県生まれ。2000年新潟大学大学院自然科学研究科博士課程修了。博士（学術）。科学技術振興事業団科学技術特別研究員、独立行政法人土木研究所研究員を経て、2005年九州大学大学院工学研究院 助手、2009年徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部准教授、2016年徳島大学大学院社会産業理工学研究部准教授。

2009年から環境省オジロワシ・オオワシ保護増殖検討会の委員を務める。風車事故が多い希少猛禽類オジロワシに興味をもち、冬期の視認情報に加え、オジロワシの幼鳥にGPSを装着して複数年に及ぶ位置情報を収集し、オジロワシのSensitivity mapの作成を行っている。オジロワシに加え、海鳥のウトウやオオセグロカモメについても同様の研究を行い、風力事業の立地選定や環境影響評価での活用を目指している。

講演者・パネリストのプロフィール

（発表順）

丸山 康司（まるやま　やすし）

所　属　：名古屋大学大学院環境学研究科
専門分野：環境社会学、科学技術社会論、科学コミュニケーション
略　歴　：東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。青森大学社会学部講師、産業技術総合研究所、東京大学教養学部特任准教授、名古屋大学大学院環境学研究科准教授を経て、2016年より現職。

環境保全に伴う社会的摩擦やジレンマと合意形成についての研究に従事し、獣害問題、自然再生事業、市民調査、農業と環境といったテーマに取り組んできた。2000年頃より再生可能エネルギー導入に伴う多様な影響についての調査研究を行っている。国際エネルギー機関（IEA）風力実施協定タスク28（社会的受容性）メンバー。研究実践として地方自治体における条例づくりやゾーニングなどの政策形成にかかわる一方、市民出資型の風車発電など地域密着型の事業づくりにもかかわっている。環境研究総合推進費の新潟大学プロジェクトにはアドバイザーとして参加した。

著書：「再生可能エネルギーの社会化」（有斐閣）、「再生可能エネルギーのリスクとガバナンス」（ミネルヴァ書房）ほか。

見上 伸（みかみ　しん）

所　属　：一般社団法人　日本風力発電協会（JWPA）理事
（株)日立パワーソリューションズ　構造改革統括本部風力事業開発センタ）

略　歴　：1967年　北海道(函館)生まれ
1992年　室蘭工業大学　産業機械工学科卒
1992年4月（株)日立エンジニアリングサービス　入社
（現　（株)日立パワーソリューションズ）
1998年より 風力発電プロジェクトに従事
風力発電所の地点開発・適地選定業務、風力発電所設計・建設業務、風力発電所運営管理業務など　風力発電所に関する業務全般を担当。
2016年　プロジェクト開発部　部長
2020年より 風力事業開発センタ　担当部長

日本風力発電協会（JWPA）には設立当初より参画し、
2019年　（JWPA）環境部会　副部会長
環境一般WGﾘｰﾀﾞｰ、合意形成WGﾘｰﾀﾞｰ
2020年　（JWPA）　理事　就任

現在は事業者の立場として　SPC８社の代表取締役、４社の取締役も兼任。